

非常災害時における避難誘導等マニュアル

平成29年11月1日

社会福祉法人 たけのこ会

グループホーム鶴亀

1. 目的

このマニュアルは、風水害等の自然災害に対する防災対策及び災害時において、利用者及び職員の生命、安全の確保を図るため、非常災害時における避難誘導等の必要事項を定めることを目的とする。

2. 施設管理者の役割

施設管理者は、気象情報に関する情報を速やかに入手できる体制を整備し社会福祉法人たけのこ会（グループホーム鶴亀）として、地元自治体、地域住民との連携により入所者等を適切に避難させるとともに、避難先での入所者とケア、健康管理等を実施する。

3. 入所者、職員数

(1) 入所者数

当施設の入所定員は、9名

(2) 職員数

総数 8名

日勤帯 3名

夜勤帯 1名

4. 情報の収集と確認

昨今の豪雨被害、ゲリラ豪雨など雨の降り方の変化を考慮し、テレビ、ラジオ、インターネットなど各種メディア、行政防災無線を通じて細かな情報収集を行い、迅速な避難誘導につなげるよう努める。

5. 避難の必要性の判断基準等

- (1) 1時間に50mm以上、または降り始めてから100mm以上の降雨量の場合。
- (2) 五島市より『避難準備情報・高齢者等避難開始』が発令された場合。
- (3) 雨雲レーダー、『ナックス長崎』（河川砂防情報システム）等により、数時間後の降水量及び河川の水位等を予測し、適切な判断を行う。

6. 避難の有無の決定

理事長、浦理事、事務長が協議して決定する。

7. 避難先の確保

| NO | 避難場所 | 所在地 | 電話番号 | 備考 |
|----|------------|-----------|---------|----|
| 1 | 大浜小学校校舎 1F | 小泊町326番地1 | 73-5144 | |

8. 避難場所の選定

気象の状況等から、施設内が安全と判断される場合には施設内の安全な場所で待機する。

9. 避難先との連絡

避難決定後、避難先に対して、避難者数、避難経路等について連絡する。

10. 入所者、職員への説明

施設責任者は、避難を開始する場合は、速やかに利用者に伝え、職員に対して安全に避難場所まで誘導する手順を示す。

11. 避難誘導応援者の連絡先 ～地域住民との連携～

| NO | 所属 | 氏名 | 携帯電話 | 備考 |
|----|---------|--------|---------------|---------------|
| 1 | 近隣職員 | 志内 香 | 090-5470-7232 | スズキ バン 26-67 |
| 2 | 職員 | 北川 真理子 | 090-6425-1851 | ホンダNBOX 62-96 |
| 3 | 職員 | 中原 綾子 | 080-5212-7310 | スペーシア 35-13 |
| 4 | 職員 | 中野 美恵子 | 090-9790-3150 | ホンダフリード 59-16 |
| 5 | 職員 | 山口 貴子 | 080-3943-8630 | タント 1-96 |
| 6 | 職員 | 福本 美代子 | 080-5282-1591 | ワゴンR 52-41 |
| 7 | 職員 | 小西 美紀 | 080-5267-1778 | スズキアルト 33-64 |
| 8 | 大浜小学校教頭 | 倉田 研 | 0959-73-5144 | |
| 9 | 大浜区長 | 高嶋 俊光 | 0959-73-5432 | 小泊町 205 番地 |
| 10 | 事務長 | 山下 睦生 | 090-9593-9345 | スペーシア 33 |
| 11 | 理事 | 浦 誠悟 | 090-5085-9717 | |
| 12 | 理事長 | 浦 藤彦 | 090-9572-9208 | |

※ 職員居住地区の遠近による集合時間のばらつきによる初動対応の遅れへの懸念や施設までたどり着けない可能性を考慮し、施設近隣に居住する職員及び近隣住民の連携による対応とする。

12. 避難に使用できる車両

(1) 施設保有、職員所有の車輛

| NO | 区分 | 車種 | ナンバー | 乗車人員 | 備考 |
|----|--------|----------------|---------|------|------------|
| 1 | 鶴亀福祉車両 | スズキスペーシア 11-89 | 運転手：勤務者 | 3名 | 入居者2名、職員1名 |
| 2 | 軽自動車 | スズキ バン 26-67 | 志内 車両 | 4名 | 入居者3名、職員1名 |

| | | | | | |
|---|------|---------------|-------|-----|------------|
| 3 | 軽自動車 | ホンダNBOX 62-96 | 北川 車両 | 3名 | 入居者2名、職員1名 |
| 4 | 軽自動車 | スズキスペース 33 | 山下 車両 | 3名 | 入居者2名、職員1名 |
| 5 | 軽自動車 | スズキスペース 35-13 | 中原 車両 | | |
| 6 | | | | | |
| | 合計 | 5台 | | 13人 | 入居者9名、職員4名 |

13. 避難準備

- (1) 施設の建物外に避難する必要があるときには、利用者の服装を検討し、防寒や防水などの対応ができるかを確認する。
- (2) 豪雨時、車両に移乗する際にはレインコートを着用する。
避難用レインコートは事前に準備しておく。
- (3) 避難誘導は、利用者の氏名を名簿等で確認しながら行う。
- (4) 避難先に到着次第、直ちに点呼などにより利用者名簿等と照合する。

14. 職員の役割分担等

(1) 指揮班

- 1) 施設管理者を補佐し、各班へ必要な事項を伝える
- 2) 関係施設への支援打診
- 3) 備蓄品、非常持ち出し品の点検・確保等
- 4) 避難状況の確認

(2) 情報収集・伝達班

- 1) 地元自治体(県・市)が発表する情報を迅速に入手し、指揮班に伝える
- 2) 応援職員への参集指示等の伝達
- 3) 入所者家族への避難情報等の伝達

(3) 避難誘導班

- 1) 施設内の防護措置、窓、雨戸締め等の実施
- 2) 入居者の避難車両への乗車補助及び避難場所への運転
- 3) 避難車両等への備蓄物資等の積み込み
- 4) 避難先施設でのケア、健康管理等の実施

15. 入所者の避難誘導

※最も出勤職員数の少ない夜勤帯（1名）を想定。

避難にかかる時間的ロスが少なく、より現実的な施設近隣の職員、住民による避難誘導を選択した。

| 人数 | 誘導担当者 | 使用車両 | 入居者氏名 | 備 考 |
|----|-----------|---------------|-----------------|--------|
| 9人 | 当 日 勤 務 者 | スペーシア 11-89 | 中村様、橋口様 | 鶴亀福祉車両 |
| | 志 内 香 | スズキバン 26-67 | 山田様、平山様、 松川様 | |
| | 北 川 真理子 | ホンダNBOX 62-96 | 濱口様、中嶋様 | |
| | 山 下 睦 生 | スペーシア 33 | 泉様、勝間様 | |
| | 中 原 綾 子 | スペーシア 35-13 | | |
| | | | | |

(注). 昼間帯の避難は、福祉車両のほか、当日勤務者（3名）の所有車両に振り分け避難する。

16. 備蓄品及び非常持ち出し品

| ① 避難誘導時 | 備 考 | ④ 医薬品 | 備 考 |
|-----------|------------|---------|----------|
| 懐中電灯 | | 処方薬 | ユニット職員管理 |
| レインコート | 豪雨の車移乗時 | 解熱剤 | |
| タオル | | 下痢止め | |
| ② 食事関係 | 備 考 | マスク | |
| 飲料水 | | ⑤ 寝具・防寒 | 備 考 |
| 携帯食 | 栄養ゼリー、レトルト | タオルケット | 圧縮袋 |
| カセットコンロ | | 毛布 | 圧縮袋 |
| はし | | カイロ | 多めに |
| 紙皿 | | 手袋、軍手 | |
| コップ | お湯可能なもの | ⑥ 各種備品 | 備 考 |
| ゴミ袋 | | 携帯ラジオ | |
| ③ 衛生用品 | 備 考 | 乾電池 | ラジオ、懐中電灯 |
| オムツ | ひと下げ | 介護記録ノート | |
| リハパン | ひと下げ | 筆記用具 | |
| パット | ひと下げ | | |
| トイレットペーパー | ひと下げ | | |
| ティッシュ | ひと下げ | | |
| 新聞紙 | | | |
| ポータブルトイレ | | | |

備蓄品は、GH鶴亀事務室に保管する

17. 避難訓練の実施

GH大浜、GH翁頭及び地域住民等と連携しながら、定期的に必要な避難訓練を実施する。

(附 則)

1. この規程は、平成 29 年 11 月 1 日から施行する。
2. 一部改正 令和 3 年 4 月 1 日